

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年6月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200219
法人名	社会福祉法人伸志会
事業所名	グループホーム永利
所在地	鹿児島県薩摩川内市永利町2533番地3 0996-20-8139 (電話)
自己評価作成日	平成24年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成24年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

利用者様一人一人の個性に応じた外出デイ・買い物・レクリエーション等個々に合わせて取り組んでいる。週1回は、医師が来てくださり利用者様が安心して生活できるように連携が図られている。グループホームの他に、病院や特養、デイサービス、デイケア等幅広く展開しており福祉面医療面のバックアップが常に充実しているH24年5月に病院が隣接してオープン予定である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

[立地・環境]

・広大な敷地内にはグループホームの他に特別養護老人ホームとデイサービスが隣接しており、運動会や敬老会などの行事を合同で楽しむことができる。
・また、5月には病院が隣接して開院予定であり、利用者はもとより、地域の医療機関としての活躍が期待される。

[介護体制]

・職員は理念に掲げてある「人間を重んじた生活の援助」を常に意識しながら、日々話し合い、繰り返し研修会を実施するなどし、毎日の生活支援や介護体制を整え、「利用者本位」のもと接する努力をしている。

[ケアプラン]

・毎月の「職員会議」と「ケア会議」において、利用者の状態について詳細にアセスメントやモニタリングを繰り返しながら、利用者の現在の状態に則したケアプラン作成に取り組んでいる。

[外出支援]

・新緑の頃には近くの公園に手作り弁当持参で出かけたり、また、日常的な外出の他に月に2回「ふるさとドライブ」で利用者が行きたいところに出かけるなど楽しみを持ちながら生活できるよう細やかな支援を行なっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員一同で考えた理念を目標に日々努力している。理念を共有し実践につなげている。毎朝、理念の復唱を行い理解を深めている。	理念については職員間で話し合い「人間の尊重を重んじた生活援助」という文言を入れ、「利用者本位」ということを最重視した関わりを実践している。また、理念の掲示、復唱に加え、ネームカードの裏に理念を記すなど、いつも理念を振り返りながら接する努力をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・月に1度ボランティアの受け入れしている。 ・敬老会には地域の方々に参加していただいております、事業所も地域の文化祭、運動会、保育園との交流を図っている。	散歩途中に農作業中の方と世間話をしたり隣接する同法人の特別養護老人ホームと合同での花見や敬老会などの行事の際に地域住民との交流の機会を設けている。また、近隣の保育園行事に参加したり永利地区の運動会や文化祭に参加するなど積極的に地域交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進委員会、家族会などを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるように情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、利用者やサービスの実施状況、取り組み等の報告、話し合いを行なっている。意見を取り入れながらサービスの向上に生かしている。 ・2ヵ月に1回、運営推進委員会を開催し情報公開等行なっている。	運営推進委員会は2ヶ月に1回開催され、市の職員や地域住民代表、家族代表、管理者や職員等が参加し事業所の活動報告等それぞれの立場からの意見を出し合い、積極的に会が進められている。市の職員からの意見で菜園を作り利用者と野菜作りを始めたところ、利用者の気持ちに穏やかさと安心感が得られるようになった事例も報告されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・家族からの相談等解釈の困難事例な際には、市役所に相談を行い、的確に答えられるように連携を図っている。また、運営推進委員会議で市の担当者と意見を交換している。	行政の窓口には介護保険申請の時や相談事で苦慮した時などに直接訪問して一緒に検討するなど日々連携を図っている。また、行政からも入居についての相談を受けるなど日頃から意見を交換し合える関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束委員会を設置し、身体拘束について勉強会を実施し禁止対象となる具体的な行為を理解しケアに取り組んでいる。身体拘束の意味を理解出来ている。 ・日中は施錠をせず見守りを行わない所在確認を行っている。 ・玄関と非常口にはセンサーがあり施錠せず対応出来ている。	身体拘束については、年に1回の研修と身体拘束廃止委員会による勉強会も2ヶ月に1回実施して職員全員が身体拘束の廃止や、よりよいケアについての具体的な話し合いが持たれている。事業所は日頃から施錠しておらず職員の見守りと職員間の目配りや気配りにより、利用者のペースを崩すことなく毎日の生活をサポートしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止の勉強会を開催し、全職員が学ぶことが出来るよう取り組んでいる。 ・虐待が見逃されることのない様注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・研修や勉強会で権利擁護に関する事を学んでおり、必要に応じ活用出来るよう取り組んでいる。 ・自立支援については、プラン作成より検討し、職員はプランに沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時には、十分な説明を行い家族の不安や疑問点を尋ね、理解、納得していただけるよう説明を行っている。 ・不安や疑問点などご家族と話し合いをするよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・面会時に家族と話す機会があり意見や要望等、少しでも取り入れていけるように取り組んでいる。 ・面会簿にも意見、要望等記入欄を設けており、職員間で共有を行い反映している。	面会時に記入してもらう面会簿の中に「意見記入欄」を設け、家族から意見をもらうようにしている。また、3ヶ月毎に作成している広報紙を家族に送付したり、年に1回食事会を兼ねての家族会開催の際に意見をもらうよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議、ケア会議を実施しその中で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また反映させている。 急な案件発生時はさらに検討機会を設けている。	日頃から職員が意見を言いやすい環境ができており、年に数回のお食事会や毎月の職員会議、また、年に1回は個別に面接を実施して意見を吸い上げている。職員の意見は年2回の「事業所法人運営会議」で話し合わせ、大切なことは事業所全体で話し合う体制を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・個々の都合を出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れやりがいにつなげるよう配慮している。 ・代表者が職員と1対1で話しが出来る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のケアの実際と力量を把握しながら、施設内外の研修に参加する機会の確保を行い、働きながらトレーニングしている。 ・医師による勉強会を実施し職員のケアの質の向上を図っている。 		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡協議会などに参加し、同業者との交流する機会を設けている。 ・同法人にもグループホームがあり交流する機会を設けている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・傾聴、観察を充分に行ない、本人が安心して過ごせるよう配慮している。 ・気づいたこと、見た事何でもノート化して、全職員が参考にしながら支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の気持ちになり、些細のことにも耳を傾け信頼関係を構築出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・必要としているサービスを見極めながら、状況把握に努め、必要なことの優先順位を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共に笑ったり、喜んだり、困ったりを感じるようにしています。協働しながら生活するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が面会に来られた時、部屋と一緒に過ごしやすい環境を整えている。 ・事前に希望があれば、家族と一緒に食事をしていただいたり、泊まっていただくことも可能である。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のイベントや買い物などの機会を作り馴染みの人との交流を図っている。 ・デイサービス等知人の利用される日は、会いに行く機会を作っている。 ・墓参りやふるさとドライブを行っている。 	入居者の馴染みの関係については、個人用の「入居者台帳」に詳細に記載されるとともに月2回実施している「ふるさとドライブ」では、馴染みの店での買い物や床屋に出かけたり、入居前に住んでいた場所に出かけ、知人らと交流するなど入居後もその関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者同士の関係を把握し関わり、助け合いながら生活できるよう支援している。 		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退所、没後においても、入院先を訪問したり、他事業所との連携をとりながら、電話する等して、家族の相談にのったりアドバイスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族にどうしたいか、どうしてやりたいかを聞き、意見に沿ってプランを作っている。本人の意向がつかめない状況においては、家族に相談したり、本人の状況を把握しながら進めている。	利用者の思いについては、日々の関わりの中で把握するとともに、思いを上手く伝えられない場合には、表情や言動、家族からの情報などを基にケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族に出来る限り教えていただいたり、本人の話の中から聞き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個々の生活パターン、残存機能の現状の把握を行いながら日々のケアを行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月ケア会議を行いモニタリングやケアプランに職員同士で意見を出し合い作成している。 ・介護計画は、本人家族、必要関係者と話し合いを行い現状に即した介護計画を作成している。	毎月の「ケア会議」の中で利用者全員について細かな話し合いがなされ、3ヶ月ごとのモニタリングで評価、情報の共有が図られケアプラン作成に反映させている。また、ケアプランについては、利用者の状態に変化がみられた際には随時見直され、常に状態に即したケアプランになるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録を細かく記載し、朝と夕方に申し送りを行い情報の共有を行い実施している。 ・必要に応じて不穏時の状態の記録をこまめに行い受診や往診時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に合わせて、意向を聞きながら施設と調整し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、所内イベントに参加していただく等企画している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族と相談を行いながら、希望する医療機関へ受診、往診を行ない適切な医療が受けられるよう支援している。 歯科医の定期的な往診もある。	かかりつけ医は、本人家族の希望する医療機関を受診できるようにしており家族と職員で協力して受診を支援している。また、週1回は協力医療機関による往診も受けられ「往診ノート」に状態を詳細に記録するとともに個人記録にもまとめ職員間での情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はいないが、医師が週1回は来て下さる為、適切な受診や看護が出来るように努めている。また、隣接した特養の看護師も相談アドバイスをして下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院した際には、安心して治療が行なえるように病院関係者と情報交換、相談を行っている。 ・入院時には、定期的に面会を行い、入院期間や今後のことを医療機関、家族と話し合いをおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・共同生活の観点から重度化した場合について事前に家族と話し合い、説明を行い終末ケアの実施が出来ない事を伝えた承していただいている。	終末期ケアについては、今後事業所としては、重度化や終末期ケアができる体制を整えたいと考えており、そのための職員の知識や意識向上を図るための研修会や話し合いが積極的に行なわれている。今後は家族会で終末期ケアへの対応についての説明会の開催を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応ができるように、講習や勉強会、施設内研修などを通して練習を行なっている。緊急時のマニュアルを作成しており職員に定期的に徹底を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>利用者と共に避難訓練を行い、連絡網の確認等も行なう。</p>	<p>年に3回、地震や不審火、夜間の火災を想定した訓練を行ない、地域住民や同法人の職員、消防団にも参加してもらい実施した。特に夜間想定訓練については、実際に夜間行なったことで職員間の意識向上につながった。非常災害時の備蓄については、各ユニット毎と隣接の特別養護老人ホームにも十分な量が確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーを損ねない言葉かけや支援の方法に留意しながら対応を行っている。	理念にある「人間の尊重を重んじた生活援助」を常に心がけ、個人を尊重した言葉かけや介護について日々話し合いが持たれている。また、プライバシーに関する研修も年に数回実施しており、人権の尊重や接遇など幅広く学ぶ機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員が決めるのではなく、本人の話を聞いたり選択肢を提示し意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いをせずに参加したくなるような雰囲気作りを行い、参加して頂くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	・本人の希望に応じて服装や身だしなみ出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一緒に準備し、食事の片付けをしています。 ・クッキングデイを活用し、利用者の食べたい物を聞きながら献立の作成や買い物と一緒にしている。	一緒に買い物に行き、食材を購入したり、調理の下ごしらえから後片付けまでの一連の工程を利用者と職員とが一緒になって行なっている。また、月に2回「クッキングデイ」を設けて利用者の好きなものを一緒に作り食べることをしており、生活の中での食べる楽しさを感じられる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと支援している。水分補給については、職員が摂取量を把握、記録して不足しないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の管理を含め、個々の状況に合わせて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を取り予防に心がけている。尿意、便意のない方の排泄パターンをつかみ、日中は布パンツ+パットにする等個々に対応している。	排泄チェック表を活用して個人の排泄パターンを把握し、こまめにトイレ誘導することで失敗を減らしている。また、毎月の「ケア会議」と「職員会議」においてもできるだけトイレで排泄できるようにと話し合わせ、ケアプランに反映させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し水分補給や食事量（内容）服薬等の調整を行なっている。運動も本人に話しながら継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	自己決定をして、入浴していただいている。好みの時間に入れるように配慮している。入浴時には、残存機能を活用し必要に応じて介助を行っている。	特に入浴時間は設けておらず、好きな時に入浴できるようにしている。入浴は個浴だが、仲の良い方同士で入浴し、季節ごとにゆず湯や菖蒲湯を楽しむ配慮もなされている。また、皮膚疾患のある方には個浴のほか、毎日足浴を行なうなど個別に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に、自由に休んでいただいている。個々の意向に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を理解し、処方内容を確認しており、病状の変化が見られたら医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や希望を考慮しながら個々に応じた対応を行なうように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来る限り戸外に出かけるように、支援しています。家族にも協力して頂き、外出や外泊も行えている。	日常的に買い物やドライブを実施するとともに、月2回「ふるさとドライブ」で利用者の希望の場所へ行けるよう外出支援している。歩行に支障があるなど外出の困難な方に対しては隣接する特別養護老人ホームから車いす対応車を借りて外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理の出来る方は、手元に持ち買い物は自分で支払っていただく。管理の難しい方は家族より預かり、施設で管理し定期的に報告している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話など希望があれば自由にお話ししていただいている。家族、友人、近隣者からも電話がある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り付けをしている。温度・湿度計で管理しています。利用者様の声に耳を傾けています。</p>	<p>リビングには季節の花や季節に応じた作品が掲示されており、ゆっくりくつろげる雰囲気が醸し出されている。また、換気にも気を配っており、各ユニット毎に3台ずつ加湿機能付きの空気清浄機が備えられている。ウッドデッキでは自由に外気浴が楽しめるとともに花壇や菜園なども眺められ、季節を感じる事ができるようになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で話しをしたり、一緒に過ごせるように配慮している。また、一人になりたい時は、居室にて個人の時間を過ごせるように支援しています。共同スペースでは自由に自然体であるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使っています。	居室には自宅から持参した小物や写真が飾られ、また使い慣れたタンスやテーブル、テレビなどが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すり、スロープなど取り付けています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員一同で考えた理念を目標に日々努力している。 理念を共有し実践につなげている。毎朝、理念の復唱を行い理解を深めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	・月に1度ボランティアの受け入れている。 ・敬老会には地域の方々に参加していただき、事業所も地域の文化祭、運動会、保育園との交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進委員会、家族会などを通じて、認知症に対する理解や協力を得られるように情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員会では、利用者やサービスの実施状況、取り組み等の報告、話し合いを行なっている。意見を取り入れながらサービスの向上に生かしている。 ・2ヵ月に1回、運営推進委員会を開催し情報公開等行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・家族からの相談等解釈の困難事例な際には、市役所に相談を行い、的確に答えられるように連携を図っている。また、運営推進委員会議で市の担当者と意見を交換している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束委員会を設置し、身体拘束について勉強会を実施し禁止対象となる具体的な行為を理解しケアに取り組んでいる。身体拘束の意味を理解出来ている。 ・日中は施錠をせず見守りを行わない所在確認を行っている。 ・玄関と非常口にはセンサーがあり施錠せず対応出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止の勉強会を開催し、全職員が学ぶことが出来るよう取り組んでいる。 ・虐待が見逃されることのない様注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・研修や勉強会で権利擁護に関する事を学んでおり、必要に応じて活用出来るよう取り組んでいる。 ・自立支援については、プラン作成より検討し、職員はプランに沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時には、十分な説明を行い家族の不安や疑問点を尋ね、理解、納得していただけるよう説明を行なっている。 ・不安や疑問点などご家族と話し合いをするよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・家族からの要望があった場合には、利用者の状態を考慮しながら対応している。 ・面会時に家族と話す機会があり、意見や要望等取り入れていけるように取り組んでいる。また、面会簿にも意見、要望等記入欄を設けており、職員間で共有を行い反映している。 ・運営推進委員会議で家族代表の意見や要望を聞き反映できるように取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎月職員会議、ケア会議を実施しその中で職員の提案や意見を聞く機会を設けて反映させている。 ・職員間で意見が言いやすい雰囲気作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・個々の都合を出来るだけ反映させた勤務体制とし、意見を取り入れやりがいにつなげるよう配慮している。 ・代表者が職員と1対1で話しが出来る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のケアの実際と力量を把握しながら、施設内外の研修に参加する機会の確保を行い、働きながらトレーニングしている。 ・医師による勉強会を実施し職員のケアの質の向上を図っている。 		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム連絡協議会などに参加し、同業者との交流する機会を設けている。 ・同法人にもグループホームがあり交流する機会を設けている。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・傾聴、観察を充分に行ない、本人が安心して過ごせるように配慮している。 ・アセスメントで本人や家族の意見を聞いて安心出来る環境になるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の思いや意見、家族の事情等充分に伺い、信頼感をもって相談が出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の現在の状況や状態、家族の要望等の聞き取りを行ないながら考慮し行なっている。 ・必要なことの優先順位を見極めて支援を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存機能に応じ、洗濯物の整理や食事の準備、後始末など日常の家事作業を職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が面会に来られた時、部屋で一緒に過ごしやすい環境を整えている。 ・事前に希望があれば、家族と一緒に食事をしていただいたり、泊まっていただくことも可能である。 		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のイベントや買い物などの機会を作り馴染みの人との交流を図っている。 ・デイサービス等知人の利用される日は、会いに行く機会を作っている。 ・墓参りやふるさとドライブを行なっている。 		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・座席も利用者同士の相性等考えて配置し、関わり合いが持てる様に配慮している。 ・個々の趣味や興味のあることを把握し、レクリエーション時の共同作業、外出同行を楽しめるように企画している。 		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退所、没後においても、入院先を訪問したり、他事業所との連携をとりながら、電話する等して、家族の相談にのったりアドバイスをを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントで本人や家族の意見を聞いて、プランを作っている。本人の意向がつかめない状況においては、家族に相談したり、本人の状況を把握しながら進めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時から情報収集（他機関や家族）を行い生活歴や思いを把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしを個人録にまとめ活用し状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、の意見をまとめて計画をつくり、毎月カンファレンスを行ないながら計画修正を行なっている。定期的にモニタリングし計画に反映させている。回診時医師からのアドバイスを聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の言葉、エピソード等も記入して、変更点、注意点は別紙ノートに記入し、全職員が情報共有できるようにしている。計画との相違点はカンファレンス時に検討し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に合わせて、意向を聞きながら施設と調整し柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、所内イベントに参加していただく等企画している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族と相談を行いながら、希望する医療機関へ受診、往診を行ない適切な医療が受けられるよう支援している。歯科医の定期的な往診もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はいないが、医師が週1回は来て下さる為、適切な受診や看護が出来るように努めている。また、隣接した特養の看護師も相談アドバイスをして下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には家族と相談を行い対応している。また、早期に退院できるように医療機関と情報交換、相談を行っている。病院関係者と常に連絡を行いながら、入院対応できるように努めている。 ・利用者が入院時には、定期的に面会を行い入院期間や今後の対応等家族、医療機関と話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	共同生活の観点から重度化した場合について事前に家族と話し合い、説明を行い終末ケアの実施が出来ない事を伝え了解していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応ができるように、講習や勉強会、施設内研修などを通して練習を行なっている。緊急時のマニュアルを作成しており職員に定期的に徹底を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に避難訓練を行い、連絡網の確認等も行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋の出入り時に声をかけたり、自分にされたらどうか、言われたらどうか、をいつも心において声かけするようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言葉かけ等にて、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気持ちを考慮し、その人に合わせ生活していただくようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みに応じて衣服を着ていただいたり、化粧の習慣がある方は継続して楽しんでいただいている。 月2回の訪問美容室ある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて準備し、配膳片付けを職員と一緒にしている。 クッキングデイなどを活用し利用者の食べたい物などを聞きながら、献立の作成や買い物と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと支援している。水分補給については、職員が摂取量を把握、記録して不足しないように注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の管理を含め、個々の状況に合わせて対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を取り失敗しないように心がけている。尿意、便意のない方の排泄パターンをつかみ、日中は布パンツ+パットにする等個々に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し水分補給や食事量（内容）服薬等の調整を行なっている。運動も本人に話しながら継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	自己決定をして、入浴していただいている。好みの時間に入れるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に、自由に休んでいただいている。個々の意向に沿って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を理解し、処方内容を確認しており、病状の変化が見られたら医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、生き甲斐、楽しみなど見つけ、して頂くことでその方の力が役に立っていることを示したり、興味のあることを継続して楽しめるよう工夫支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来る限り戸外に出かけるように、支援しています。家族にも協力して頂き、外出や外泊も行えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理の出来る方は、手元に持ち買い物は自分で支払っていただく。管理の難しい方は家族より預かり、施設で管理し定期的に報告している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話など希望があれば自由にお話ししていただいている。家族、友人、近隣者からも電話がある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、季節に応じた飾り付けをしている。温度・湿度計で管理しています。利用者様の声に耳を傾けています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で話しをしたり、一緒に過ごせるように配慮している。また、一人になりたい時は、居室にて個人の時間を過ごせるように支援しています。共同スペースでは自由に自然体であるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持ってきて使っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すり、スロープなど取り付けています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない